

令和5年度 学校自己評価システムシート (県立浦和西高等学校)

(A 3 判横)

目指す学校像	自主自立の精神を生かして、国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼される進学校
--------	---

重点目標	1 確かで高度な学力を確立し、第一志望を実現する質の高い授業の実践 2 地域に信頼され貢献できる生徒の育成 (信頼される人間力の育成) 3 たくましく健やかな心身の育成
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目 (年度達成目標を意味する。) は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
年 度 目 標					年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>「確かで高度な学力の確立」の指標となる大学合格実績も、令和4年度卒業生も近年の高水準を堅持し、難関大学現役合格者数をさらに増加させた。教員が生徒を尊重しつつ、献身的に指導を行い、生徒は自主自立の精神をもって、高い志を掲げ、全力で努力する。本校の躍進が続いている。</p> <p>課題は、大きな変化を見せた新傾向入試への対応及び令和4年度入学生から実施される新学習指導要領に基づく学力養成の体制整備である。</p>	<p>高い志を持って目標を設定し、「確かで高度な学力」を身に付け、最後まで諦めることなく第一志望実現に挑む生徒を育成する。</p> <p>「確かで高度な学力」を身に付けさせる質の高い授業づくりを推進するとともに、生徒一人一人の進路希望に対応した多彩で効果的な学習機会を提供する。</p>	<p>1 確かで高度な学力」の育成、第一志望の実現 ①進学校12校を対象とした県教育委員会事業「オンライン連携講座事業指定校」を活用した学習指導・進路指導の推進 ②大学入学共通テストをはじめとする新制度入試の動向把握と生徒への情報提供、学習指導への反映 ③進路相談や個人面談等による個に応じたきめ細やかな進路指導の実践</p> <p>2 質の高い授業の実践 ①生徒による授業評価アンケートの実施 (年2回)、シラバスを活用した授業改善 ②一人一台タブレット、ICTを活用した学習指導の充実と活用方法の研究、検証 ③教科内研究協議、校内授業相互見学、外部講座等による授業改善 ④観点別評価を活用した学習指導の充実</p>	<p>①旧帝大・医学部医学科等国立大学トップ校の合格者数増加 ②③難関大学の現役合格者数増加 国立・早慶上理・GMARCH 一昨年度352名 昨年度352名</p> <p>①授業満足度の向上 (昨年度87.8%) ②一人一台タブレット、ICTを活用した指導の拡大・向上の状況 ③④授業力向上研修の拡大・向上の状況</p>	<p>①夏季進学補講 (23講座) に加え、オンライン連携講座指定校として、オンライン講座 (5講座) を開講するほか、通年で各教科による補講を実施し、進路指導、学習指導ともに充実した。 ②大学入学共通テストの改訂を踏まえ、教育課程の一部見直しを行うとともに、進路に関する説明会等を活用し生徒に情報を提供した。「本校の進路に関する説明会や模擬試験の活用など進路指導が充実している」生徒85%、保護者75%が肯定的な回答 ③各クラス担任により個人面談を複数回実施するなどにより、個人に応じた進路指導を実施することができた。【「先生方もいつも親身になって相談に乗ってくれる」生徒90.8%、保護者87.6%が肯定的な回答】</p> <p>①③④年度当初にシラバスを作成し生徒と共有することで、指導と評価の一体に取り組んでいる。また、授業評価アンケートを1学期末、2学期末に実施するとともに、校内授業相互見学期間を設け、教員同士の授業改善の風土を醸成した。授業満足度は88.0% (昨年度87.8%) ②令和5年度入学生から導入した一人一台端末 (BYOD) について、生徒の所持、活用状況等を調査、検討し、次年度からはBYADとすることを決定した。【「ICT (情報通信技術) を活用した学習活動が充実している」生徒57.8%、保護者58.6%が肯定的な回答】</p>	A	<p>・生徒、保護者とともに「学習指導」と「進路指導」を本校に期待している現状を踏まえ、引き続き、質の高い授業の実施に向け、各教科で指導の充実を図り、研究を重ねていく必要がある。</p> <p>・一人一台端末について、効果的な活用方法の研究が必要である。</p>
2	<p>学校HPを中心に多様なメディアを活用するとともに、対面での情報提供にも積極的に取り組み、開かれた学校づくりを推進している、本校に対する地域の信頼が高まっている。</p> <p>コロナ禍により中止・縮小された事業 (小学校交流やクリーンアップ作戦など) を再開させ、交流活動を着実に実施する。</p>	<p>様々なメディアを活用して西高の魅力情報を発信し、開かれた学校づくりを一層推進することにより、地域・県民との信頼関係をより強固なものにしていく。</p> <p>コロナ禍において、自ら率先して考え、工夫し、地域との交流や社会貢献活動に取り組むことができる生徒を育成する。</p>	<p>1 本校の特色、教育活動の状況、生徒の活動の発信 ①情報発信の中心である学校HPの充実 ②保護者アンケートの導入 ③学校説明会の効果的な実施、部活動見学会等の開催 ④中学校や学習塾が実施する高校説明会への参加</p> <p>2 新型コロナウイルス感染拡大により中止・縮小された地域交流活動の着実な実施 県・保健所の指導の下、感染防止対策を徹底した上で、 ①PTA・後援会と連携した事業の推進 ②斜面林友の会と連携した斜面林保全活動の推進 ③生徒会主催クリーンアップ作戦 (地域清掃) 等社会貢献活動、ボランティア活動への参加促進 ④90周年記念事業実行委員会の設置</p>	<p>①HPの構成、コンテンツの改善・充実の状況 ②保護者アンケート結果の状況 ③④入試の志願倍率の状況</p> <p>①②③地域交流活動、社会貢献活動の実施の状況 ④実行委員会の活動の状況</p>	<p>①学校HPを220回更新し、生徒や本校の教育活動の取り組みを発信した (1月19日現在) 【「本校のホームページから学校の様子が伝わってくる」保護者76%が肯定的な回答】 ②本校の教育活動を振り返り、次年度へつなげるため、保護者アンケートの内容を整理するとともに、生徒向けにアンケートを実施した。 ③④学校説明会を7回実施し、参加者は延べ3834名であった。また、夏季に実施した部活動体験は193名が参加した。県や学習塾等が実施する説明会に7回参加し、中学校PTAによる上級学校訪問を5校受け入れた。 ①②PTA・後援会により「西高を語る会」や「よしみ西高講座」等を実施し、斜面林友の会主催の「焼き芋大会」にも多くの生徒が参加した。【「本校のPTA活動が充実している」保護者82.7%が肯定的な回答】 ③地域貢献の一環として、管弦楽部がロータリークラブ主催の演奏会に出演し、美術部が浦和駅西口再開発仮用プロジェクトへ協力する予定である。 ④90周年記念実行委員会を設置し、90周年事業 (講演会) を令和6年11月に開催することとし、90周年記念誌を発行することを決定した。</p>	A	<p>・教育活動の状況を適時に情報提供し、保護者、地域の皆様からより信頼される学校づくりを行っていく。</p> <p>・90周年記念事業及び記念誌の発行を着実に実施、発行できるよう綿密な準備が必要である。</p>
3	<p>全校生徒が授業や部活動、生徒会活動に積極的に参加し、学習面・生活面でしっかり自己管理しながら取り組んでいる。自ら考え、課題を発見し、その課題を解決する力 (西高力) を伸長させた。</p> <p>課題は、遅刻者数の増加、交通マナーへの対応である。また、コロナ禍により中止・縮小されたグローバル (国際理解) 教育の着実な実施である。</p>	<p>学習面・生活面で自己を管理し、部活動や生徒会活動に積極的に参加することで、「西高力」 (自ら考え、課題を発見し、その課題を解決する力) を育成する。</p> <p>地域や国際社会に貢献、活躍するリーダーを育成する教育を充実させる。</p>	<p>1 自己管理能力の育成 ①朝学習・家庭学習の奨励、学習支援ツールの活用による支援 ②部活動・生徒会活動・学校行事の充実 ③自己管理能力の育成 生徒指導部による交通マナー指導、遅刻防止指導の徹底 生徒会主催のUNマナーアップ作戦 (交通マナー遵守) の実施</p> <p>2 新型コロナウイルス感染拡大により中止・縮小されたグローバル (国際理解) 教育の着実な実施 県・保健所の指導の下、感染防止対策を徹底した上で、 ①オーストラリア交流、研修事業の実施 ②留学生の受入、海外派遣事業への参加</p>	<p>①授業以外の自主的学習時間の増加 ②部活動加入率の維持・向上 (昨年度100.5%) 生徒会活動・学校行事の実施状況、執行部参加生徒数の増加 ③年間遅刻者数減少、交通マナーの遵守の状況</p> <p>①オーストラリア交流、研修の事業の実施の状況 ②留学生の受入、海外派遣事業への参加の状況</p>	<p>①全学年で「スタディサプリ」を導入し、第2学年でも新課程の「情報」を事前学習できるような環境を整えた。 ②西高祭 (体育祭・文化祭) は各種制限をなくして実施し、部活動でも夏季合宿も復活した。部活動加入率は104.6%であった。【「学校行事が充実している」生徒93%、保護者92.2%が肯定的な回答】 ③適時に登下校に関する指導を行い、事故防止やマナー向上に向けて指導を実施した。遅刻者数は2224件であった。 ④4年ぶりにオーストラリア海外研修を実施 (20名参加) することができた。また、ALTによる語学教育の充実や、学年で講演会を実施するなど、国際理解教育を着実に実施することができた。【「国際理解教育が充実している」生徒70.9%が肯定的な回答】 ②2学期からフィンランドからの留学生を受け入れ、県のグローバルリーダー育成事業に3名の生徒を派遣した。また、台湾の彰化高級中学校の生徒50名が来校し、交流を行った。</p>	A	<p>・生徒や保護者にとって「学校行事」の満足度は高く、アフターコロナで実施形態を模索するなど、生徒たちの自主的な取り組みが実践できた。</p> <p>・国際理解教育について、次年度の受け入れ準備が今後の課題である。</p>

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	3名
	事務局 (教職員)	12名

(書面審査及び意見書の提出による)

学校関係者評価	実施日 令和6年2月3日 (土)
学校関係者からの意見・要望・評価等	<p>・今年度は年内入試 (推薦や総合型) の数が少なくなったが、進路ガイダンス等で進路に関する情報を適時に伝達するとともに、個別面談を行い生徒の希望を理解しながら、生徒の後押しをする進路指導は素晴らしい。</p> <p>・大学共通テストは「難化した」と思われがちだが、学習指導要領の育成を目指す資質・能力の「3つの柱」が前提になっている出題となっているため、日頃の授業でも常に意識する必要がある。各教科で研究を進めてほしい。</p> <p>・一人一台端末については、小・中学校で端末を活用して学んだ生徒が入学してくることを踏まえ、先行事例等を研究し活用法を検討してほしい。タブレットを使うことが「目的」にならないようにしてほしい。</p> <p>・ICTの活用は「個別最適化された教育」にも効果的であり、西高の教育目標実現のためにも、研究をしてほしい。</p> <p>・学校HPだけではなく、学校説明会や部活動体験、各種説明会に参加するなど、様々な機会をとらえて、学校の教育活動を発信できていることは素晴らしい。</p> <p>・斜面林友の会に3年生の生徒が自分で研究している内容を発表する機会 (研究会) を実施したが、参加者が高校生の活躍に感銘をうけた。</p> <p>・行動する西高生は地域の誇りである。ぜひ、ごみ等を捨てる人間ではなく、拾う人間になってほしい。地域は生徒をよく見ているので、クリーンアップ作戦 (地域清掃) 等の具体的な活動は継続的に取り組んでほしい。</p> <p>・アフターコロナでPTA行事も取り組めたことは良かった。今後も保護者の活動が生徒のためになるよう邁進したい。</p> <p>・90周年事業は生徒たちも巻き込んで、歴史と伝統ある西高をお祝いしてもらいたい。</p> <p>・生徒会の活動について、意見ボードの工夫など、生徒のニーズや現状を踏まえ、毎年ブラッシュアップされており、素晴らしい。地道な活動があつてのことであり、今後も頑張ってもらいたい。</p> <p>・コロナにより遅刻や欠席が多くなってしまっているのかもしれないが、日常生活習慣の重要性も伝えてほしい。生徒の皆さんには、よく考え、地域から愛される西高生になってもらいたい。</p> <p>・4年ぶりにオーストラリア海外研修の実施、留学生の受け入れ、県事業への派遣など、国際理解教育が充実できたのは良かった。国際理解教育は西高にとってとても重要な要素であり、日頃の教育活動においても意識できるよう取り組んでほしい。</p>